

八四六〇余万円を見込む

馬場一	四〇〇
厚方瀬三	九三五〇
命苦	一九七八八〇
宿利原	三一九四〇
神川中	六二八七〇
	九三二二〇
計	二八日
才原	一八七九三〇
中西	三七二七三〇〇
神川上三	三八七〇〇
大久保	一〇四五六〇五
計	二七日

町体協九月の行事決る

前期收納日程					
納付日	改良町名人員	量目			
21日	皆會	六二八二〇			
//	厚々類一	一二五〇九〇			
計		一八七九一〇			
22日	大尾	二四九〇〇			
//	神川上一	二六三三〇			
計		五一七五三〇			
23日	半下石	七三〇五〇			
//	金苔	三一六九〇			
//	神川上一	六一八〇			
計		一六七九二〇			
24日	宿利原	九四七二〇			
//	神川中	八三三五〇			
計		一七八〇七〇			
宿利原		六三三八〇			
			町体育協会では、このほど理事会を開き、九月中の行事として次のようにバレー、野球大会などを開くことを決めた。		
			なお体協では、官公署団体の職員の外一般の加を歓迎し、加入希望者は町公民館内体協事務局（担当者榎元主事）宛申込まれるよう望んでいる。競技種目は十種目で会費は年一人入り百円を納めればどの種目に出てもかまわない。		
			一、バレー大会		
			1、日時 九月十一日前九時		
			2、場所 大根占小学校		
			二、野球大会		
			1、日時 九月十七日午後一時		
			2、場所 大根占小学校講堂		
			3、講師 県体育保健課		
			三、社会体育レクリエーション購		
			習会		
			1、日時 九月十四日（予定）		
			2、場所 大根占小学校講堂		
			3、講師 県体育保健課		
			3、入場式		
			九月十七日午後一時より南大隅高校大根占校舎に於て行う（優勝戦敵と優勝戦を九月二十四日に行う）		
			A会場 大根占小学校		
			B // 南大隅高校大根占校舎		
			所 //		
			//十八日午前九時		
			//二十四日午前十時		

南薩を視察して

の時に当り
々青年はこ
へと歩みを
を痛感し、
化の向上を
七日から三
亘の指宿

秋冬野菜の作り方

九月は秋冬蔬菜のまき時です。よく考へて、少くとも自給するだけはせむ栽培してさう。

○大根 いろいろの品種を組合せて、来年五月までくらさなうに作る。種子を堆肥の上に直かにまいたり、未熟堆肥をうつたりすると、また大根になつたり、大根の肌が悪くなる。毎大根をまいてくされる所に連作しないこと。心喰虫が発生するからDDT乳剤を一週間おきに二、四回かける。

販売用は点播にするよひ。

○かんらん 一月〜四月用は三年子サクセツシヨシ、野崎夏時など中生種を、中旬以後は早生系品種を播く。反当の播種床は三〜五坪、種子は、四斗くらひ。坪当堆肥、下肥各二、五畝を施し、更に木灰一斗位をやつて耕うし、そして二寸に条播して敷蓋灌水をする。

本葉二、三枚で四寸平方に仮植する。定植は本葉八〜九枚が適期。

○白菜 上薹帯は八月中旬、里方面は九月上旬播き、品種は京都

三号、愛知白菜、チーフなど結球するもの、山東菜、直れなどは半結球野菜では一番多く肥料を要するのうんと肥料をやる。

○王葱、貝塚早生、泉州黄など九月上旬播き、反当苗床は二〇坪、肥料はかんらん土に準じてやる。坪当りの播種量は三勺、反当五合を要する。

○その他、人蔘、豌豆、ホーレン草、青菜など、忘れないうち播く。

郷社・河上神社(三)

六、社伝、御手洗川と鰻
神社下を流れる御手洗川は其の源を上ノ宇都山に発する。土着部落の東三百米、野間勢の断崖の下に洞窟あり。高三米、中二米、奥行三米あって其の奥より冷水滝の如く流出し如何なる氷柱の年も枯渴を知らず。この水が湯間をくぐり土着部落の水田に出で神社の下を蛇行している。

古来この川に棲居する鰻と鮒は神の使属と称せられ、当郷に於ては之を捕食する事をかたく慎しんだ。もしこの禁を犯す者があれば神の御咎を受けて腹膈が起ると云々。この文書を見る通り、徳川三百年の封禁制度が終りを告げ、自由民権の新思想を基調とせる明治維新の新政治力が農村の未端まで浸透して来た郷土の事例として示唆を与へるものである。かくて村の反対にもかゝらざる県の裁断により境内下言間の間は捕獲を禁止し其の外の地域は解禁する事に決定して事態の解決を見たのである。

七、神事、桂松
当神社独得の神事に桂松なる行事が旧八月十五日、九月十三日の両日に行われる。其の由来については詳かでないが奥下には其の例を見ないものである。

以上桂松の概観を叙述したが、往古は村の二才衆（今の青年）は一週間位毎夜神社に宿泊して身を清め翌日は野に夢を刈り綱を作つたといふ。又綱作りが終れば月月碌の綱と称し小綱を松の枝に掛けて奉納し、大綱は神社に運ぶ事になるが綱が神社に到着すれば他の若人達は之を迎える為數計つて、師をなしたと言ふが今は簡素化されてゐる。又昔は竹笠、消火する等の事はなく、水を持って点火したもので仲火が付かないものであつたといふ。

●桂松考
桂松は一体如何なる由緒に延びる

大根占の郷土史
(第十四回)

中旬後半に台風接近か
気温はやや低目

9月中旬
方面に張
氣が變る
つきやす
南方海上
す。気温
雨量はや
9月下旬
づれやす
氣圧が變
通過しや
よう。台
よ。気温
やや少い

予 中 旬
想 下 旬
平 中 旬
年 中 旬
値

いたわりましょう

「としより」を

「どしよりの日」によせて

鹿兒島県社会母子課長
正 込 政 夫

止
込
政
夫

想は、非常な成長をげたので、あることによつて解決されていた。人の責任があるという考え方

仕する心がけがなければな

二、我が国の養老思想
年よりに衣食をあたえ、礼をもつてこれに仕えるという習慣は遠い昔から我が国に伝えられて来た美風である。竹取物語、養老の滝、

が、それ等の人々の生活

持つて保障するようになった。ち、私の慈善事業から公的扶養へと考え方が移つて来たのである。